



おにぎり通信

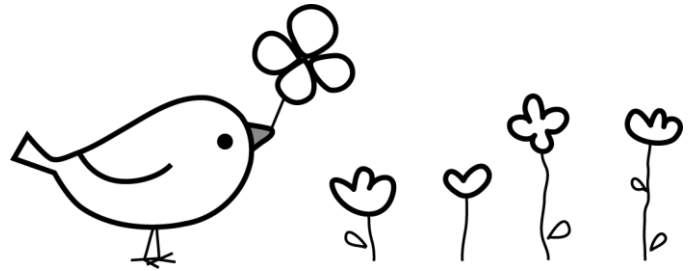
2015年4月11日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、銀座・日比谷公園、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

今日4月11日はなんと「ガッツポーズの日」です。

1974年のこの日、ボクシングWBC世界ライト級タイトルマッチで挑戦者ガッツ石松がチャンピオンのロドルフォ・ゴンザレスに対しKOで勝利しました。その時のガッツ石松の姿をある新聞記者が「ガッツポーズ」と表現したことから、この言葉が一般に知られるようになったそうです。

☆3月30日(月) 福祉行動報告
どなたもお見えになりませんでした。



次回の福祉行動：4月13日(月) 朝8時30分までに東京駅丸の内北口地下に

集合してください。喫煙所横、コンビニの並びの赤富士の絵のところに「おにぎり通信」を持った者が待機していますので、声をおかけください。

病院に行きたい方や、体を休めたい方と一緒に「福祉事務所」や「聖イグナチオ生活相談室」まで、ボランティアが同行いたします。

福祉行動は原則として毎週月曜日に行います。

福祉行動は参加されるそれぞれの方が、ご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと伝えることにより成り立ちます。

最寄の福祉事務所ほか

中央区福祉事務所…中央区築地 1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所…千代田区九段南1-2-1 3階

聖イグナチオ生活相談室…千代田区麴町6-5-1 聖イグナチオ教会内

<「生活保護」という名称を変えてみるのもいいかも？>

色々なニュースを読んでいたところ、「生活保護」について名称を改めるべき、という意見がありました。

「生活保護」という言葉にはマイナスイメージがついて回っています。生活が苦しくても「生活保護」を受けるのは、抵抗感があるために利用しない、という人は実際多くいます。

それならば、「生活保護」という言葉そのものについてしまっているネガティブイメージを払拭させるために「生活保護」を別の言葉に変えてしまえばいいのではないのでしょうか。

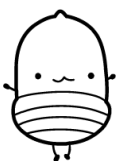
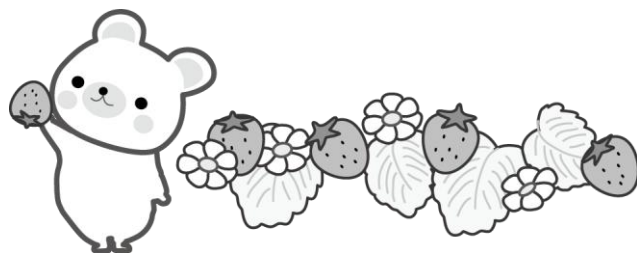
言葉を変えることでそれが持つイメージを変えようとするのは実はよくあることです。

たとえば子供支援の場においては「登校拒否」が「不登校」に変わったことで、登校拒否のもつマイナスイメージがある程度緩和されました。精神医療の場では「精神分裂病」が「統合失調症」に変えられたことで、精神障害者に対する負のイメージが緩和されました。

同じように「生活保護」も他の名称に変更してマイナスイメージを緩和すればよいのではないのでしょうか。

そうすることで、本当にこの制度を必要としている人々が気軽に問い合わせでき、利用できるように変えるべきです。

日本の代表的なセーフティーネットである「生活保護」が、もっと身近になってほしいと思います。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せずに、ゴミ箱に入れるなどして片付けにご協力をお願いいたします。

おにぎりはかならずその日のうちにお召し上がり下さい。

受け取るのは、1人1個でお願いいたします。